

管理所レビュー VOL.06

(R 5. 7. 6 水源林管理所)

令和5年度の第6回ボランティア活動が、6月24日(土)に予定どおり実施されました。

当日は、雲が多いながらも安定した天気となり、気温も21度と作業しやすい絶好の間伐日和となりました。

次回の活動日の道志村は、曇り、最高気温27度、湿度80%の予報となっています。横浜よりも気温が低いとはいえ、間伐作業ではケガの防止や害虫からの被害軽減のため、裾を閉めた状態で長袖・長ズボンを着用していますので、熱中症のリスクが高まります。通気の良い衣類を身に付け、こまめな休憩と水分補給を心掛けましょう！

それでは、安全活動のための水源林管理所の振り返りなどをお知らせします。

1 活動日の様子



雲が多いが晴れ間も。



準備体操をしっかりと！



いってらっしゃ〜い！



枝の多い木へのロープかけの様子。



前回活動で実習した動滑車設置を実践。



もう少し鋭角に引きたいですね。



動滑車使用で楽々伐倒！



大勢での枝払いは注意して！



鋸の挟まれ防止に補助を。



補助ロープを使って転がり防止！



難しい隙間に見事に伐倒！



傾斜地では態勢に注

2 受け口と追い口の間の切り残し部分（ツル）の役割について（再掲）

「受け口と追い口の間の切り残し部分（ツル）」以下ツルとします。ツルは、木が倒れる時に曲がりながら引きちぎれる時の抵抗で倒れる速度を抑制し、蝶つがいの働きにより伐倒方向を確実にします。安全に伐倒するためには重要な部分です。

追い口の切り込みの深さは、ツルが有効に働くまでの深さとし、切り足りないときは修正の切り直しを行いません。その際には、決して切り込み過ぎないように注意が必要です。

〔ツルの働きは次のように要約されます。〕

- ① 伐倒木の倒れる速度を抑制します。
- ② 伐倒方向を確実にします。
- ③ 伐倒する立木の安定を保ちます。



ツルは蝶つがい。



ツルの機能が十分に働いた状態。

（「伐木造材作業者必携」より一部抜粋）

3 かかり木発生！

今回の活動でもかかり木が発生しました。詳しい状況は分かりませんが、切り株を見ると斜め下方向を伐倒目標としたようですが、ツルを残さず（見当たらない）切ってしまったため、元口がずれ重心が逆になり、上方向に倒れて2本の立木の間にはさまるようにかかりました。

斜め下方向を伐倒目標としていたが、上方向に倒れた事は大変危険な状況です。

再三の注意喚起となりますが、

安全な伐倒の要は、目標となる伐倒方向に向けた正確な受け口・追い口を切り、適正な切り残し（ツル）を残すことです。

例えば、目標となる伐倒方向から5度ずれるだけで、15m先では1m以上のずれが生じます。目標となる伐倒方向に正確に伐倒するために、受け口・追い口を何度か確認し、必要ならば切り直しを行い、目標の伐倒方向に安全に伐倒できるよう、細心の注意をお願いします。

※枝がらみや傾斜木などの倒すことが難しい状況の立木や、伐倒に自信がない場合などは切らずに残し、管理所職員に報告をお願いします。



ツルがない???



2本の立木の間…。



後日、管理所職員で処理しました。



※ 次回7月8日（土）の活動からは、バスの配車を1台に変更します。

ご協力をお願いします。

※ 7月8日（土）は、曇り、最高気温 27 度、湿度 80%の予報です。

★それでは7月8日（土）、気をつけてお越してください。